（別紙イ）

事業成果報告書
［取組Ⅰ］都道府県教育委員会による小中一貫教育推進に関する取組

１．都道府県教育委員会名　　　　：　山口県教育委員会

２．取組の名称　　　　　　　　　：　山口県小中一貫教育推進事業

※事業完了報告書表紙の「１．事業の名称」と同じ名称になります。

３．事業の実績

（１）事業のねらい

モデル地域・学校においては、小中間の滑らかな接続を目指し、コミュニティ・スクールの仕組みを生かして、保護者や地域の方も交えた合同研修会や小中合同学校運営協議会等に計画的・継続的に取り組む。県教委においては、モデル地域・学校に対して進行管理・指導助言を行い研究の質を高めるとともに、成果を県内外に発信することで、全県的に中１ギャップの解消を図り、小中連携・一貫教育の充実に資する。

※［取組Ⅰ］［取組Ⅱ］の両方を含む事業全体のねらいについて、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

（２）事業の実施状況

○モデル地域、モデル校訪問(年２回程度) モデル地域、モデル校を訪問して取組状況を確認し、進行管理及び指導助言を行った。 ※小中一貫教育並みの連携教育からの脱却を推進するように指導助言 ○山口県小中一貫教育推進協議会（年２回） 各モデル地域・学校に共通する課題について指導助言・講師を招聘した研修会を行った。 ○やまぐち小中一貫教育実践発表会 in周南 周南市立和田小学校、和田中学校において小中一貫教育の具体的実践発表会を開催し、県内全小中学校への情報発信を行った。 ○先進地視察 小中一貫教育及び地域と一体となった教育に先進的に取り組む学校を訪問し、その事例をモデル地域に紹介した。 ○小中一貫教育説明会 義務教育課担当者が要望のある市町に出向いて、管理職や教職員に対して小中一貫教育の説明を行い、普及を図った。

※［取組Ⅰ］［取組Ⅱ］の両方を含む事業全体の実施状況について、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

（３）事業の成果

○モデル地域において、小中一貫教育を全中学校区で実施を検討している市町が増えた。(岩国市・宇部市・和木町) ○先進校視察や研修会の開催により、他県、他市町の小中一貫教育の取組について多くの情報を得ることができ、モデル校における小中一貫教育の取組が進んだ。 ○モデル地域以外でも、小中一貫教育を域内で取り組もうと検討している市町教育委員会が増加してきた。 ○やまぐち小中一貫教育実践発表会 in周南では多くの参加者で盛大な発表会となり、小中一貫教育の関心が高まった。(アンケート結果から)

※［取組Ⅰ］［取組Ⅱ］の両方を含む事業全体の成果について、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

（４）今後の取組予定

・小中一貫教育啓発リーフレットの作成・配布 ・やまぐち小中一貫教育実践発表会 in和木の開催（１１月or２月予定）岩国市及び和木町の実践事例発表 ・山口県小中一貫教育連携協議会（年２回）

※［取組Ⅰ］［取組Ⅱ］の両方を含む事業全体の今後の取組予定について、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

４．取組Ⅰの実績

（１）取組のねらい

各モデル地域の状況を把握し、共通する課題解決に向けた研修と各モデル地域の取組について情報交換の場を設定し、各市町における域内全域での小中一貫教育の取組普及を支援する。

※［取組Ⅰ］において実施した具体的な取組のねらいについて、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

（２）取組Ⅰの実施状況（平成29年度）

４月	
５月	
６月	・モデル地域・モデル校訪問①(今年度の小中一貫教育の取組計画の確認と取組状況の把握)
７月	
８月	
９月	
10月	・モデル地域・モデル校訪問②(やまぐち小中一貫啓発リーフレット作成のための情報収集、小中一貫教育の取組状況の把握)
11月	・第1回山口県小中一貫教育連携協議会(11/24)
12月	
1月	・先進地視察【東京都三鷹市立高山小学校、三鷹市教育委員会、三鷹中央学園研究発表会】(1/18～19)
2月	・第2回山口県小中一貫教育連携協議会(2/5) ・やまぐち小中一貫教育実践発表会in周南(2/5)：周南市の実践事例発表 ・やまぐち小中一貫啓発リーフレット作成のための情報収集(モデル市町教委訪問)
3月	・山口県の全教職員を対象とした広報誌「ニューズレター」に取組を掲載

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。
※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。
※本事業から経費を支出した事項（会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など）については、必ず記載すること。

（３）取組の成果

○モデル地域による小中一貫教育の「９年間の教育目標」の設定と「９年間のカリキュラム」を整備した地域が増えた。 ○モデル地域の取組状況に応じた、研修会や情報交換の場の設定ができた。 ○モデル校の中で、具体的な交流や合同行事、乗り入れ授業に取り組む学校が多い。 ○モデル地域以外で、小中一貫教育について域内で推進しようとする市町教委が増えてきた。

※［取組Ｉ］において実施した具体的な取組の成果について、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

（４）今後の取組予定

・モデル地域訪問：モデル地域、モデル校を訪問し取組状況を確認する。状況に応じ進行管理及び指導助言を行う。 ・山口県小中一貫教育推進協議会（年２回）：モデル地域・モデル校の実践の参考になる先進的な取組を行っている市町教委や学校の考え方や取組の紹介等を推進協議会で行う。 ・やまぐち小中一貫教育実践発表会 in和木：小中一貫教育の具体的実践事例の県内全小中学校への情報発信 ・モデル校での実践事例を紹介する「やまぐち小中一貫啓発リーフレット」を全小中学校へ発信 ・９つの視点に沿った各モデル地域・モデル校での実践 ・各モデル地域・モデル校での実践評価のための評価方法の設定

※［取組Ｉ］における来年度以降の取組予定について、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

５．［取組Ⅱ］を実施した協力市町村教育委員会等

通し番号	教育委員会等の名称	
Ⅱ－１	岩国市教育委員会	
Ⅱ－２	和木町教育委員会	
Ⅱ－３	周南市教育委員会	
Ⅱ－４	萩市教育委員会	
Ⅱ－５	宇部市教育委員会	
Ⅱ－６	山陽小野田市教育委員会	

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。また、通し番号は、Ⅱ－１、Ⅱ－２、…とすること。

［別紙様式３］
（別紙イ）

平成２９年度　事業成果報告書
［取組Ⅱ］市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号	Ⅱ－1

※都道府県教育委員会において記載すること

１．市町村教育委員会等の名称　：岩国市教育委員会

（住所　：　山口県岩国市今津町１丁目１４－５１
代表者職・氏名　：　教育長　佐倉　弘之甫）

２．取組の名称　：岩国市小中一貫教育推進事業

３．取組Ⅱの実績

（１）取組のねらい

○岩国市小中一貫教育の推進計画・推進方針、ガイドライン、Ｑ＆Ａ集、リーフレットを活用し、周知・啓発する。 ○モデル校においては、中学校区で、９カ年を見通したカリキュラムの編成に取り組むとともに、コミュニティスクールとしての活動を活性化させる。 ○モデル校の取組、取組の成果等を市内の小中学校に情報提供することにより、小中連携･一貫教育及び、コミュニティスクールとしての「地域とともにある学校づくり」を加速させる。 ○小中一貫教育研修会を開催し、教職員及び保護者、地域住民への周知を図り、理解と協力を求める。

※［取組Ⅱ］において実施した具体的な取組のねらいについて、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

（２）取組Ⅱの実施状況（平成29年度）

４月	
５月	第１回岩国市小中一貫教育モデル校連絡協議会
６月	
７月	
８月	第１回岩国市小中一貫教育推進委員会
９月	
10月	先進地・先進校視察Ⅰ（広島県）
11月	
12月	
1月	先進地・先進校視察Ⅱ（京都府：全国サミット）

2月	山口県小中一貫教育実践発表大会 in 周南 岩国市小中一貫教育ブラッシュアップ研修会（取組発表、所管説明及び講演会） 第２回岩国市小中一貫教育推進委員会（Ｑ＆Ａ集について協議）
3月	岩国市小中一貫教育推進計画・推進方策・ガイドラインの修正・策定 岩国市小中一貫教育推進事業に係るリーフレットの作成

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。
※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。
※本事業から経費を支出した事項（会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など）については、必ず記載すること。
※成果物（冊子・パンフレット等の印刷物）については51部添付すること。この成果物の電子媒体がある場合は、併せて添付すること。
※成果物等を掲載したWebサイトがあればそのURLをアップした月の欄に記載すること。

（３）取組の成果

○岩国市小中一貫教育の推進計画や推進方針、ガイドライン、Ｑ＆Ａ集、リーフレットを作成した。小中一貫教育モデル校連絡協議会、小中一貫教育推進委員会において紹介したり、岩国市校務支援システムの掲示板に掲載して学校への周知を図った。あわせて、各学校において印刷することも出来るので、校内研修や中学校区研修会で活用したり、学校運営協議会委員や保護者等への周知に活用いただいたりした。
○モデル中学校区においては、「めざす子ども像」を共有し、小中合同研修会などにおいて小中学校相互の教員や学校運営協議会委員の参加による熟議等を通じて、９年間を見通したカリキュラム【縦のつながり】の本格的な編成に入った。また、同時に、コミュニティスクールとしての活動【横のつながり】も活性化した。
　これらのことにより、教職員及び児童生徒の交流がより一層盛んになり、「中１ギャップ」・「１０歳の壁」を意識した協働体制が構築された。
○結果として表れた数値
　・学校適応　不登校児童生徒数の低下
　　不登校の出現率　　平成２８年度比　　－２．３４人
○モデル中学校区のみならず、他の中学校区においても、小中合同研修会を行うなど小中連携が充実・深化し、特色のあるカリキュラムづくりに着手している。
○先進地・先進校視察を通して、各市及び一貫校の取組状況を知り、基本計画や基本方針の作成に生かすことができた。
○小中一貫教育推進委員会に、専門家や保護者代表、地域住民を入れることにより、それぞれの立場からの意見を得て、基本計画・基本方針の策定につながった。
○小中一貫教育ブラッシュアップ研修会において、教職員のみならず、学校運営協議会委員や保護者等へ「岩国市がめざす小中一貫教育」について、広く理解を得ることができた。
○本市はすべての小中学校がコミュニティ・スクールに指定されているため、横のつなが（地域連携）が土台となって、小中連携教育から小中一貫教育へのスムーズな移行につながっている。

※［取組Ⅱ］において実施した具体的な取組の成果について、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

（４）今後の取組予定

○今年度末までに、今ある基本計画・基本方針、ガイドライン、Ｑ＆Ａ集、リーフレットを見直し、来年度の啓発資料として情報提供する。
○市のホームページに小中一貫教育に係るコーナーを設置し、市内外に広く啓発する。
○モデル校連絡協議会及び推進委員会を定期に開催し、取組の評価及び点検を行う。また、各校のカリキュラムについて検討する。
○モデル校の取組の実践事例集を作成する。
○長期休業中に、岩国市小中一貫教育研修会を開催し、市内すべての教職員及び、保護者、地域住民に対し、「岩国市がめざす小中一貫教育」について啓発する。
○先進地・先進校視察（全国サミット）に参加し、先進的な取組に学ぶ機会とする。

※［取組Ⅱ］における来年度以降の取組予定について、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

（別紙イ）

事業成果報告書
［取組Ⅱ］市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号	Ⅱ－2

※都道府県教育委員会において記載すること

１．市町村教育委員会等の名称　：

住所	：	山口県玖珂郡和木町 和木２丁目１番１号
代表者職・氏名	：	教育長・重岡　良典

２．取組の名称　：　小中一貫型　和木小学校・和木中学校における和木学園構想の実現にむけて

３．取組Ⅱの実績

（１）取組のねらい

「町ぐるみ『和木学園』」構想を実現させる。平成３１年度のこども園開園に向けて、これまでの園小中の連携をより強固なものにする。また、これからの連携の在り方や様々な課題の解決に向けて具体的な方策を探る。そして、ふるさと和木に誇りと愛着を持ち、和木の将来を担う人づくりを行う。

※［取組Ⅱ］において実施した具体的な取組のねらいについて、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

（２）取組Ⅱの実施状況（平成29年度）

４月	・第１回町園小中一貫教育協議会（今後の方向性、具体的な取組について協議） ・第１回町園小中一貫教育推進委員会 （今年度の具体的な取組について協議「１５年間のカリキュラム」「接続期カリキュラムの作成」） ・第１回町ＣＳ委員会 ・町スマイルルーム（適応指導教室）コーディネーター会議 ・町園小中校長会 ・つながる子どもの育ち大会実行委員会
５月	・町春季教職員総会（園小中全教職員参加） ・町スマイルルーム（適応指導教室）コーディネーター会議 ・町園小中教頭会 ・第１回町ぐるみ防災キャンプ準備委員会 ・和木学園勉強週間
６月	・第１回町ＩＣＴ教育合同研修会（ＩＣＴ活用で授業改善、わきっ子授業デザイン） 【鹿児島大学教育学部教育実践総合センター准教授 山本朋弘先生】 ・町園小中合同避難訓練 ・町園小中臨時教頭会 ・第１回町いじめ問題対策協議会 ・第２回町ぐるみ防災キャンプ準備委員会 ・町小中臨時校長会 ・園小中養護教諭部会 ・和木学園勉強週間
７月	・町生徒指導推進協議会（わきっ子の健全育成について） ・町スマイルルーム（適応指導教室）コーディネーター会議　・第１回町「教師の日」運営協議会　・町教育親善使節団恵庭市訪問　・第３回町ぐるみ防災キャンプ準備委員会　・第４回町ぐるみ防災キャンプ準備委員会
８月	・第５回町ぐるみ防災キャンプ準備委員会　・町ぐるみ防災キャンプ　・園小中教職員陶芸体験　・第１回県小中一貫教育推進協議会参加　・町夏季教職員研修会（園小中一貫教育（１５年間のカリキュラム・接続期カリキュラムの作成、ＣＳ３部会について）　・第２回町ＣＳ委員会　・町教職員陶芸体験教室　・町学校保健会　・町通学路安全対策会議　・第２回町「教師の日」運営協議会　・街頭補導
９月	・町スマイルルーム（適応指導教室）コーディネーター会議 ・和木中体育祭（小学生参加種目の設定） ・和木小運動会（園児参加種目の設定）
10月	・第２回町いじめ問題対策協議会 ・つながる子どもの育ち大会実行委員会 ・和木学園勉強週間

11月	・町「教師の日」（園・小・中それぞれの発表）　・町青少年問題協議会　・第１回県小中一貫教育推進協議会参加（小中一貫教育の推進について）　・鹿児島市立山下小学校公開研究会（学校情報化優良校視察；鹿児島市）　・小中一貫教育全国サミット参加（先進校視察；京都市）　・町スマイルルーム（適応指導教室）コーディネーター会議　・和木学園勉強週間
12月	・第２回町ＩＣＴ教育合同研修会（ＩＣＴ活用、わきっ子授業デザイン）　・つながる子どもの育ち大会実行委員会 【鹿児島大学教育学部教育実践総合センター准教授 山本　朋弘 先生】 ・町スマイルルーム（適応指導教室）コーディネーター会議 ・町第２回園小中一貫教育推進協議会　・町第２回園小中一貫教育推進委員会
1月	・町冬季教職員研修会（園小中一貫教育、コミスク３部会の取組について） ・町スマイルルーム（適応指導教室）コーディネーター会議　・和木中職場体験学習（保育体験） ・つながる子どもの育ち大会　・園小中保健事業日程調整会議
2月	・第３回町ＩＣＴ教育合同研修会（ＩＣＴ活用、わきっ子授業デザイン）【鹿児島大学教育学部教育実践総合センター准教授 山本　朋弘 先生】　・やまぐち小中一貫教育実践発表会in周南参加（先進校視察）　・町スマイルルーム（適応指導教室）コーディネーター会議　・第３回町いじめ問題対策協議会　・町園小中一貫教育教務主任会議　・第３回町ＣＳ会議　・小学６年生中学校体験授業と体験部活動　・和木学園勉強週間　・町園小中一貫教育推進委員会
3月	・町スマイルルーム（適応指導教室）コーディネーター会議 ・町一貫教育推進協議会

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。
※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。
※本事業から経費を支出した事項（会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など）については、必ず記載すること。

（３）取組の成果

【各種研修会等の成果】
①町ＩＣＴ教育合同研修会〈年３回開催〉
〈第１回〉公開授業・研究協議「ICTの活用と「わきっこ」授業デザイン」
〈第２回〉公開授業・研究協議「ICTの活用と「わきっこ」授業デザイン」
〈第３回〉公開授業・研究協議「授業改善（ICT活用、「わきっこ」授業デザイン等）と子どもの学習活動」
・指導助言
　･･･（指導助言者：鹿児島大学教育学部教育実践総合センター准教授山本朋弘先生）
※年間３回の研修会をとおして、ICTの効果的な活用と授業改善を推進することができた。和木町に新たに異動してきた教員が、日々の授業の中でごく自然にＩＣＴを活用しているのもその成果と言える。引き続き、黒板とチョーク、紙と鉛筆ではできないことを補う名脇役として使いこなせるようにしたい。また、「わきっこ」授業スタンダードの中の「つきあわせる」（対話的な学び）をいかにつくるか、小・中学校の共通実践で子どもを鍛えること、教員の授業力を高めることについて研修をした。
②町「教師の日」　平成２９年１１月９日（木）
・内容：式典、緑の風発表会
・参加者：小学５・６年生、中学生、園小中教職員、ＰＴＡ、町内教育関係者、保護者など約500名
・内容：園教職員の発表、小学６年生・中学３年生の発表、中学生ホームステイ実施報告、中学生防災キャンプ実施報告、中学生英語スピーチ発表、町民歌全員合唱等
・和木町の園小中教育の子どもの姿をとおして成果を発表すると共に、今後の課題について確認する機会となった。
③町教職員研修会
・小中一貫教育に関する研修、15年間のカリキュラム及び接続期カリキュラムの作成について協議、ＣＳ３部会の進捗状況確認とこれからの取組について協議
※「英語教育」「キャリア教育」についての15年間のカリキュラム及び接続期カリキュラムの作成を手がけることができた。まだまだ試作段階（仮キュラム）であるが、これから園小中教職員の協働作業への入り口となった。

【先進校視察の成果】
①鹿児島市立山下小学校公開研究会（2015～2017学校情報化優良校）：平成２９年１１月１０日（金）
・ICTを活用した先進的な授業づくりや地域に流れる「郷中教育」を目の当たりにし、今後の和木町教育の展開に大いに参考になった。
②つながる子どもの育ち大会（玖珂小学校）：平成３０年１月２６日（金）
・「人がつながらなけらば（幼小連携や一貫教育）始まらない」「文書が行くのではなく、人が行く」。連携や一貫教育を推進するための苦労や工夫を知ることができた。
③小中一貫教育全国サミット（京都市）：平成３０年１月２５日（木）・２６日（金）
・小中一貫教育推進の方向性を確認し、その後の会議や取組の各園・校の主体性につながった。
④小中一貫教育実践発表会（周南市立和田小・中学校）：平成３０年２月５日（月）
・和田小・中学校の時程をそろえる取組等、先進的かつ具体的な取組を目の当たりにし、その後の会議や取組の各園・校の主体性につながった。

【その他の小中一貫教育に関する取組の成果】
①ＣＳ３部会（「学力向上」「体力向上」「心」）
・各部会で、園小中で共通実践することができた。
②園小中合同避難訓練
・中学生が園児の手を引いて避難する等、合同だからこそできる訓練を仕組むことができた。
③小学生の中学校生活（授業、部活動）参観及び体験
・中学校の教科教室型の教室で、中学校教員や町ＡＬＴによる授業を体験
・心磨き清掃の体験　・部活動の体験
④和木学園勉強週間
・中学校のテスト週間に合わせ、小学生もテレビの視聴やゲームをする時間を見直し、兄弟姉妹そろって家庭学習に励む事を促す。
※「がんばりカード」を作成することで、家庭でめあてを設定し、学習時間等について家庭で振り返る場を設けることができた。「一家で勉強した。」等、保護者からも好評を得た。
⑤全国学力・学習状況定着問題、山口県学力定着状況確認問題

山口県学力定着状況確認問題（H29.10月実施）県平均との差

	小3	小4	小5	小6	中1	中2
国語	−0.8	4.6	1.1	−1.7	−6.3	−4.2
算数・数学	−5.0	10.8	2.9	−8.1	−8.8	−2.8

学年によって学力結果や変容について差がある。この差を埋めていく事が課題である。
⑥問題行動等調査（いじめ、不登校）
・いじめの認知件数は町いじめ問題対策協議会を行う中で、各校とも教職員のいじめに対する感度が上がり、その早期発見と初動につながるようになった。
・不登校についても町スマイルコーディネーター会議等で情報共有が図られ、ＳＳＷやＳＣに早期の内から繋げることができ、家庭支援ができた。

※［取組Ⅱ］において実施した具体的な取組の成果について、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

（４）今後の取組予定

①15年間のカリキュラム完成と実践
・「仮キュラム」から、実用性のあるカリキュラムへと進化させる。園小中の教職員が”つながり”を理解でき、実践しやすいものとする。また、園と小中のつながりを明確にし、非認知の領域から、小中学校への学びへのつながりを明らかにしたい。
②ふるさとに誇りと愛着を持ち、和木の将来を担う人づくりの推進
・「やまぐち型地域連携協育」と「園小中一貫協育」のツールをつかって、将来の和木町を担う人材を園小中教職員が協働して育成する。
③小中一貫教育実践発表会の開催
・和木町の実践を県内に向けて発信し、これまでの成果と今後の課題を知る。
・地域の資源を学校課題の解決につなげる。

※［取組Ⅱ］における来年度以降の取組予定について、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

事業成果報告書

［取組Ⅱ］市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号	Ⅱ－3

※都道府県教育委員会において記載すること

１．市町村教育委員会等の名称　：周南市教育委員会

（住所　：　周南市毛利町２丁目２番地
代表者職・氏名　：　教育長　中馬　好行）

２．取組の名称　：周南市小中一貫教育推進事業

３．取組Ⅱの実績

（１）取組のねらい

【目的】
・児童生徒の学力、いじめ、不登校等の諸問題を解決・改善していくために、地域と一体となって小中が連携して９年間の連続した取組の在り方について研究する。
【内容】
・各モデル校において、やまぐち型地域連携教育を基盤に、小中学校の学校運営協議会委員や教職員で９年間を通して育てたい「子ども像」を共有し、その実現に向けて「共通実践できる項目」の精選や「地域や校種で連携・一貫した教育活動の設定」、「学校評価づくり」を行うことにより、児童生徒を地域ぐるみで育てていくとともに、児童生徒にとってギャップの少ない継続的な教育の在り方を模索し魅力ある学校を実現する。

※［取組Ⅱ］において実施した具体的な取組のねらいについて、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

（２）取組Ⅱの実施状況（平成29年度）

４月	■平成２９年度やまぐち小中一貫教育研究協議会in周南の発表校（和田小中学校）への学校訪問
５月	■第１回周南市小中一貫教育連絡協議会（５月３０日） ※再委託前であるが、いち早く計画に取りかかるために開催した。事業の概要、小中一貫教育の意義について確認し、今後の取組や先進校視察についての説明を行った。
６月	■先進校視察（６月２７日広島県府中市上下学園） ※小中一貫校を視察することで、周南市の小中一貫教育の方向性を探った。
７月	
８月	■周南市小中一貫教育モデル校への学校訪問
９月	
10月	
11月	■小中連携研究発表大会（兼周南市小中一貫教育連絡協議会）への参加 ①９年間の系統的なカリキュラム編成　②言語活動を充実させた授業づくり ③授業と家庭学習をつなぐ「鹿野っ子ノート」についての研究成果を発表した。 ※鹿野小学校・鹿野中学校にて開催。 ■第１回山口県小中一貫教育モデル推進協議会への出席（１１月２４日）
12月	■周南市小中一貫教育モデル校への学校訪問
1月	■リーフレット作成検討委員会 ※作成スケジュールや掲載内容（具体的な目標、取組、成果等）について検討した。 ■次年度モデル校区への説明（鹿野中学校区）

2月	■やまぐち小中一貫教育実践発表会in周南（和田小・和田中）での実践発表（２月５日） ※和田小学校・和田中学校の取組発表、授業公開の他、周南市の取組やモデル校区（鼓南中学校区、富田中学校区）の取組の発表を行った。 ■第２回山口県小中一貫教育モデル推進協議会への出席（２月５日） ■リーフレット作成
3月	■リーフレット配付 ※周南市の小中一貫教育推進の方針、推進計画およびモデル校区の取組を掲載した。

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。
※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。
※本事業から経費を支出した事項（会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など）については、必ず記載すること。

（３）取組の成果

○小中合同で行事や活動を行うことで、中学生のリーダーとしての意識が向上し、実施後の達成感、充実感、自己肯定感が高まった。同時に、小学生の中学生に対する憧れの気持ちが育ち、向上心をもてるようになった。（事後アンケート、日記より）
○９年間で児童生徒を育てるという教職員の意識が高まった。
（教職員アンケートによる肯定的な意見　前期６９％→後期８８％へ）
○小中一貫や地域連携の取組に対する認識について、生徒、保護者ともに高まった。
（学校評価アンケートより）
○小学校の外国語活動を校内研修の１つに据え、中学校の英語担当教員が継続的に指導や支援をすることにより、小学校教員の授業力向上につながった。
○小中学校の教員と学校運営協議会委員が、中学校区の課題を協議するに留まらず、道徳の教科化の方向性を学ぶなど小中、地域が一体となった研修会を開催できた。
（夏季休業中の小中合同研修会）

※［取組Ⅱ］において実施した具体的な取組の成果について、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

（４）今後の取組予定

平成３０年度モデル校区の鹿野小、鹿野中では、平成２８，２９年度の教育課程研究指定校事業（国立教育政策研究所より委託）での調査研究をふまえ、地域との連携による学習にも視点を当てた小中連携から小中一貫への研究を行う。１１月に鹿野小・鹿野中による周南市小中一貫教育研究発表会を開催し、研究の成果を市内全域に広める。
平成２８，２９年度のモデル校区については、その後の取組についてを、モデル校区以外の小中学校については、小中連携教育についての進捗状況を確認し、平成３１年度以降の方向性を見極めたい。

※［取組Ⅱ］における来年度以降の取組予定について、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

（別紙イ）

事業成果報告書

［取組Ⅱ］市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号	Ⅱ－4

※都道府県教育委員会において記載すること

１．市町村教育委員会等の名称　：　山口県萩市教育委員会

住所　：　山口県萩市大字江向５１０

代表者職・氏名　：　教育長　中村哲夫

２．取組の名称　：　萩市小中一貫教育推進事業

３．取組Ⅱの実績

（１）取組のねらい

萩市立福栄小学校・中学校を教育委員会規則によって「中学校併設型小学校」「小学校併設型中学校」（小中一貫教育校）として指定するとともに、平成２８年度から３カ年、一貫教育校のモデル校として定め、研究実践を積み重ねる。その研究実践を検証するとともに、成果や課題を把握し、萩市にある小中併設型の学校８校を３カ年で、すべてその地域の実態に応じた小中一貫教育校として指定していくことをねらいとする。

※［取組Ⅱ］において実施した具体的な取組のねらいについて、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

（２）取組Ⅱの実施状況（平成29年度）

４月	・小中合同の学校運営協議会において、９カ年の一貫した学校教育目標、育てたい児童生徒像、教育課程等の説明、承認
５月	・全国学力・学習状況調査、山口県定着状況確認問題などにおける児童生徒の実態把握
６月	・第１回萩市小中一貫教育推進委員会において、今年度の活動方針・活動計画の立案
７月	・学期末の学校評価の実施（小中一貫教育における視点を明確にする）
８月	・学校評価の分析－ＰＤＣＡサイクルによる具体的な方策の検討 ・２学期以降の取組、教育課程の確認
９月	・第２回萩市小中一貫教育推進委員会において、小中一貫教育についての研修 （講師　呉市立阿賀小学校　校長　山下伸一　様）
10月	・小中合同の学校運営協議会において、これまでの取組の成果や課題の共有、具体的方策の検討
11月	・研修視察Ｉ：小中一貫教育小規模校全国サミット（奈良市立田原小中学校）
12月	・第３回萩市小中一貫教育推進委員会において、小中一貫教育における課題の明確化、各校の小中一貫教育校立ち上げの進捗状況、成果報告
1月	・研修視察Ⅱ：小中一貫教育全国サミット（京都府京都市）

2月	・第４回萩市小中一貫教育推進委員会において、来年度の取組への協議、児童生徒の変容の把握
3月	・小中合同の学校運営協議会において、平成２９年度の取組の成果や課題の説明、協議、来年度の小中一貫教育の取組の検討

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。
※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。
※本事業から経費を支出した事項（会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など）については、必ず記載すること。

（３）取組の成果

小中一貫教育推進委員会において、呉市において先進的な取組を進めてきた校長先生を講師に迎え、併設校だけではなく隣接校における小中一貫教育の進め方等についての話も聞くことができ、これからの萩市の小中一貫教育の推進に大いに役立つものであった。また、今年度小中一貫教育校として立ち上がった３校の取組状況や、来年度立ち上げる２校についての進捗状況を共有したり、全国サミットの復伝を行ったりと有意義な研修ができ、各校の取組に生かすことができた。

※［取組Ⅱ］において実施した具体的な取組の成果について、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

（４）今後の取組予定

当初の予定である、平成２８年度のからの３カ年で小中併設型の７校をすべて一貫教育校に指定する方向で進める。今年度立ち上がった３校に加え、来年度は２校の準備がほぼ整っており指定する方針である。また、モデル校である福栄小中学校の３年間の取組の集大成として、研究発表大会を行う予定である。また、隣接校における小中一貫教育校の立ち上げについて、萩市小中一貫教育推進委員会で今後も検討していく。

※［取組Ⅱ］における来年度以降の取組予定について、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

（別紙イ）

事業成果報告書
［取組Ⅱ］市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号	Ⅱ－5

※都道府県教育委員会において記載すること

１．市町村教育委員会等の名称　：

住所　：　宇部市港町一丁目11番30号

代表者職・氏名　：　教育長・野口　政吾

２．取組の名称　：　小中一貫教育推進事業

３．取組Ⅱの実績

（１）取組のねらい

・　宇部市小中一貫教育推進協議会を設置し、平成３２年度から市内全小中学校で導入する、宇部市の小中一貫教育の方向性や教育委員会の支援の在り方等を検討する。

・　２つのモデル校区（施設併設型１、分離型１）での実践研究への支援を行う。

※［取組Ⅱ］において実施した具体的な取組のねらいについて、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

（２）取組Ⅱの実施状況（平成29年度）

４月	モデル校連絡会（第１回）	小中相互乗入授業（４月～３月）
５月		
６月		
７月	モデル校連絡会（第２回）	
８月	市小中一貫教育推進協議会（第１回） 宇部市校長研修会ワーキンググループ（小中一貫教育部会）で協議 モデル校連絡会（第３回）	
９月		
10月	市小中一貫教育推進協議会（第２回） 宇部市校長研修会ワーキンググループ（小中一貫教育部会）で協議 先進校視察（大分市立賀来小中学校）	
11月		
12月		
１月	小中一貫全国サミット参加 モデル校連絡会（第４回）	
２月	市小中一貫教育推進協議会（第３回） モデル校による実践発表会（宇部市校長研修会、教頭研修会）	
３月		

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。
※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。
※本事業から経費を支出した事項（会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など）については、必ず記載すること。

（３）取組の成果

・　２つのモデル校区において、９年間を貫く学校教育目標を設定することができた。 学校目標を小中統一して『誇りのもてる児童生徒の育成』として取り組んできた結果、83%の生徒が自校に対して「とても誇りである」、「誇りである」としており、保護者も５ポイント増え、７０％が肯定的にとらえている結果が出た。 ・　授業スタイルや学習・生活規律の設定することができた。 ・　モデル校において、「ノーメディア週間」を同日に実施した結果、中学生において、平日の家庭学習時間３時間以上の生徒が２ポイント、２時間以上の生徒が１ポイント増加した。

※［取組Ⅱ］において実施した具体的な取組の成果について、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

（４）今後の取組予定

・来年度から、モデル校以外の学校を推進校とし、スタート準備を始める。 ・９年間を見通した小中一貫カリキュラムの作成 ・学習指導や生徒指導における共通指導事項を基に、より具体的で共通化した校則の作成 ・相互乗入授業の強化 ・教職員研修における「テーマ」及び「体制」づくり ・学校評価の共通化

※［取組Ⅱ］における来年度以降の取組予定について、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

（別紙イ）

事業成果報告書
［取組Ⅱ］市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号	Ⅱ－6

※都道府県教育委員会において記載すること

１．市町村教育委員会等の名称　：　山陽小野田市教育委員会

住所　：　山口県山陽小野田市日の出一丁目１番１号
代表者職・氏名　：　教育長　宮内茂則

２．取組の名称　：　小中一貫教育推進事業

３．取組Ⅱの実績

（１）取組のねらい

２９年度より小中一貫型小･中学校に移行する厚陽小・中学校では、全国のモデル校を視察し、先進的な取組を取り入れる。また、校内研修に指導者を招聘し、教員の研修を深めることにより、地域のよさを生かし、児童・生徒の実情に合ったよりよい小中一貫カリキュラムを構築していく。３２年度に新校舎が完成する埴生中学校区では、全国のモデル校を視察することで、小中一貫教育導入の見通しをもつ。市教育委員会でもさまざまな情報を集め、事業の推進を図る。事業の進捗状況を市内の学校教員や保護者へ知らせ、小中一貫教育についての周知を図る。

※［取組Ⅱ］において実施した具体的な取組のねらいについて、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

（２）取組Ⅱの実施状況（平成29年度）

４月	厚陽小・中学校　研修計画の協議・決定 埴生中学校区（埴生小、津布田小、埴生中）　研修計画の協議・決定
５月	厚陽小・中学校　小中合同研修会・職員会議（以降月１回程度開催） 埴生中学校区　３校校長会（以降月１回程度開催）
６月	
７月	厚陽小・中学校　静岡県沼津市立静浦小中一貫学校視察、研修会での復伝
８月	厚陽小・中学校　校内研修「全校で取り組む自問清掃について」（講師　平田治氏） 埴生中学校区　３校合同学校運営協議会の開催
９月	厚陽小・中学校ふれあい運動会
10月	厚陽ふれあいフェスタ
11月	厚陽ふれあいクリーン大作戦
12月	
1月	市教委　「山陽小野田市の小中一貫教育」パンフレット作成 埴生小・津布田小　福岡県飯塚市立小中一貫校潁田校視察、研修会での復伝

2月	市教委　広島県府中市立明郷学園視察　復伝 市教委　「山陽小野田市の小中一貫教育」パンフレット印刷
3月	

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。
※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。
※本事業から経費を支出した事項（会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など）については、必ず記載すること。

（３）取組の成果

厚陽小・中学校においては、中１ギャップの軽減がみられ、スムーズな移行ができている。また、小中合同授業研修会を通して、小中学校教員の歩み寄りがみられる。また、いじめなど、生徒指導関係の指導においても情報共有を図ることでよい効果がみられる。自問清掃に全児童・生徒が共通して取り組み、学校の特色となっている。埴生小・中学校については、管理職による定期的な会議が開かれ、合同研修会を進める基盤が整いつつある。

※［取組Ⅱ］において実施した具体的な取組の成果について、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

（４）今後の取組予定

厚陽小・中学校では、来年度特に外国語の９年間を見通した小中一貫カリキュラム作りを行っていく。また、PTA組織の一本化を進めていく。埴生小・中学校では、３校で合同研修会を開いて、小中一貫カリキュラム作りを進めていく。

※［取組Ⅱ］における来年度以降の取組予定について、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。